

令和7年度第6回学校運営委員会報告

師走の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

去る12月12日(金)に、第6回学校運営委員会を開催いたしました。議事概要などをご報告させていただきます。

<学校運営委員会 委員名簿>

本間友佳子(地域:委員長)
諸橋 幸子(本校PTA会長)
齋藤美和子(地域)
長島 大輔(卒業生)
石井 伴映(就学予定児童保護者)
百田 範恵(有識者)
福島 百子(地域)
工藤 恒健(保護者)
小泉 一弘(本校校長)



てっぺん教室 スポーツ鬼ごっこ

6回学校運営委員会 議事概要

1. 委員長あいさつ

すっかり冬らしく寒くなってまいりました。ひと月ぶりの運営委員会ですが、その間、インフルエンザが流行したり、学校では様々なイベントが開催されたりしました。イベントに関してはとても楽しませていただきました。冬休みまであと少しですが、児童の皆さんが休まず元気に過ごせるといいなと思っています。

2. 校長あいさつ

今日もお集まりいただきありがとうございます。今日は「今後の区立小・中学校地域運営学校を支える仕組み(案)について」の資料に関しまして、お示しすることができるようになりました。資料にお目通しいただきまして、何かありましたら次回の学校運営委員会でご質問いただけたらありがたいなと思っております。

今、学校の方はいろいろなことを変えているところですが、今年度は一学期、二学期とつうしんせんの所見を書かずに面談にしました。そのあたりいかがでしたでしょうか。今のところ好意的なものが何件か私の耳に入ってきております。また、保護者会の回数を減らしているというところでは、やはり保護者会があった方が横のつながりが取りやすい、という意見も耳にしています。しかし一方で、保護者会を開いてもなかなか人が集まらないし、横のつながりはライン等で繋がっているの、保護者会を復活させるよりは個人面談の方が好ましい、という意見も聞いております。

つうしんせんに関しましても新たな流れが出てきておりまして、つうしんせんを学期ごとに出すのではなくて、前半・後半に出すというものです。3学期制を変えるつもりはなく、つうしんせんだけを前半・後半制にするというものです。一回一回の評定の精度をもっと高めるためには効果的だと考えます。例えば3学期というのはとても短くて、あの短い中でやった学習内容で、本当にきちんとした評定が出せるのか、妥当なものなのか、と言われると、先生方は本当に一生懸命やっていますが、子どもの力を見るためにはもう少し評価の材料になる資料が多くないと難しいのではないのかと思っています。ですので2回にすることで、一回分の評価の材料が多くなることで子どもの力を正しく見極められるのではないかと思います。皆さまの意見を参考にしまして、今後より良くなりますようにしていきたいと思っております。

3. 議事概要

<山のてっぺん教室プロジェクトについて>

10/18日(土)、12/6日(土)に行われましたてっぺん教室についての報告と、2/14日(土)に開催予定のてっぺん教室について話し合いました。

○10月18日(土)に開催の「空間ワークショップ」は6月に雨天中止となったリベンジ開催で、46名の参加者がグループに分かれて、日本建築家協会世田谷地域会の建築家の方々のサポートで角材と大型輪ゴムだけを使用しそれぞれが工夫をしながら立派な基地(いえ)を完成しました。また、「将棋教室」は日本将棋連盟の2人の講師が1年生から3年生の44名の参加者に向き合って、初心者子どもたちにマナーから駒の動かし方の基本的なことを、経験者子どもたちとは、数人の子どもの相手を対局してくださるという充実した時間でした。

○12/6(土)に開催の「スポーツ鬼ごっこ」は、スポーツ推進委員の方々のご協力のもと、3,4年生16名が2チームに分かれて元気よく参加していました。チーム戦ということで、途中からは作戦を練って勝利を目指す、頭も体も使う楽しい時間になりました。「将棋教室」は24名の参加で前回よりも人数が少なかったため、初心者も経験者も、じっくり将棋に取り組めて実力がアップしたと思います。

○次回のてっぺん教室は2/14(土)に開催を予定しています。「将棋教室」のほか、もう一つの教室は検討中です。楽しい企画を開催したいと思いますので、決まりましたらお知らせさせていただきます。

◆学校運営委員会事務局◆

副校長：山口千砂、森田夕紀
主幹教諭：境野孝徳、黒岡一之
主任児童委員：西村幸子

◆運営委員会記録・報告書文責◆ 第6回委員会担当：福島百子